

チューナーベース ユニット

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

PB-860



安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したときは



- ❶ 電源を切る。
- ❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く。
- ❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口
に連絡する。

- 炎が出たら



- ❶ すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる場合があります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意



手を挟まれないよう注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



アース線を
接続せよ



指示

目次

⚠ 警告	4
⚠ 注意	5
その他の安全上のご注意	7
概要	8
本機の性能を保持するために	9
各部の名称と働き	10
前面	10
液晶ディスプレイ	11
後面	12
準備	14
カバーを取り外す	14
アンテナを接続する	15
電源コードを接続する	15
チューナーを取り付ける	15
設定について	16
受信システム例	17
24 チャンネル受信システムの例（アンテナ 2 系統）	17
30 チャンネル受信システムの例（アンテナ 1 系統）	18
各種メッセージ	19
故障かな？と思ったら	20
仕様	21
保証書とアフターサービス	22
保証書について	22
アフターサービスについて	22



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



禁止

油煙、湯気、湿気、ほ こりの多い場所では設 置・使用しない

上記のような場所に設置す
ると、火災や感電の原因と
なります。

取扱説明書に記されている
仕様条件以外の環境での使
用は、火災や感電の原因と
なります。



禁止

内部に水や異物を入れ ない

水や異物が入ると火災や感
電の原因となることがあり
ます。

万一、水や異物が入ったと
きは、すぐに電源を切り、
電源コードや接続コードを
抜いて、ソニーのサービス
担当者または営業担当者に
ご相談ください。



禁止

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つ けない

AC 電源コードや DC 電源
接続コードを傷つけると、
火災や感電の原因となりま
す。

- コードを加工したり、傷
つけたりしない
- 重いものをのせたり、
引っ張ったりしない
- 熱器具に近づけたり、加
熱したりしない
- コードを抜くときは、必
ずプラグを持って抜く
万一、コードが傷んだら、
ソニーのサービス窓口に変
換をご依頼ください。



禁止

製品の上に乗らない、 重いものを乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れ
たりして、けがの原因とな
ることがあります。



分解禁止

分解や改造をしない

分解や改造をしたりする
と、感電の原因となること
があります。



注意

アンテナの突起に注意 する

本機を操作するときに目を
近づけすぎると、アンテナ
で目を突き、けがにつなが
ることがあります。



手を挟まれないよう注意

前後の扉の開閉の際に 手や指を挟まない

前後の扉を開閉するとき
手や指をはさみ、けがの
原因となることがあります。
また、前後の扉を開いたま
まで使用しないでくださ
い。



指示

本機は日本国内用です

交流 100V でお使いくださ
い
海外などで、異なる電圧で
使うと、火災や感電の原因
となることがあります。



指示

付属の電源コードを使 用する

付属以外の電源コードを使
用すると、火災や感電の原
因となります。



指示

電源コードのプラグ及 びコネクターは突き当 たるまで差し込む

真っ直ぐに突き当たるまで
差し込まないと、火災や感
電の原因となります。



指示

表示された電源電圧で 使用する

製品の表示と異なる電源電
圧で使用すると、火災や感
電の原因となります。



注意

下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に**損害**を
与えることがあります。



禁止

本体スロットに異物を 入れない、内部の部品 をさわらない

指定のチューナー以外のも
のを入れると、火災や感電
の原因となることがありま
す。落下してけがの原因と
なることがあります。また、
この製品のスロット内部に
は、外装がなく鋭利なエッ
ジが露出しており、手を触
れるとけがをするおそれが
あります。

機器の開閉、運搬及び設置
の際には、けがを防ぐため
保護手袋を着用するように
使用者に注意喚起を行って
ください。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグ をさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜
き差しすると、感電の原因
となります。

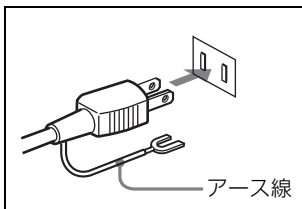


アース線を
接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。次の方法でアースを接続してください。

- アース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。



安全アースを取り付けることができない場合は、ソニーのサービス担当者にご相談ください。



指示

安定した場所に設置する

製品が倒れたり、搭載した機器が落下してけがをすることがあります

十分な強度がある水平な場所に設置してください。



指示

受信待機時や電源の ON / OFF 時には、接続した機器の入力を絞る

電源の ON / OFF 時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



指示

運搬時には、電源コードや接続ケーブルを取り外す

本機を運搬する際には、電源コードや接続ケーブルを必ず取り外してください。コード類に引っ掛かると、転倒や落下の原因となることがあります。



指示

運搬するときは取っ手を持ち、チューナーを固定する

取っ手以外のところを持って運ぶと、チューナーが落下してけがの原因となることがあります。



指示

チューナーは確実に取り付け

取扱説明書に記載された方法（15 ページ参照）でしっかり確実に取り付けないと、故障やけがの原因となることがあります。

その他の安全上のご注意

機器を水滴のかかる場所に置かないでください。また水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

警告

アースの接続は、必ず電源プラグを電源コンセントへ接続する前に行ってください。

アースの接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

警告

設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。

万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

警告

イヤホンやヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

注意

付属の電源コードは本機の専用品です。他の機器には使用できません。

概要

PB-860 は、UHF シンセサイザーダイバーシティチューナー WRR-860 シリーズを 6 台まで収納し、チューナーへの電源供給や、本機に接続したアンテナからの RF 信号を分配供給できる、可搬型のチューナーベースユニットです。

6 チャンネル同時運用

WRR-860 シリーズを 6 台取り付けることにより、6 チャンネル同時運用のダイバーシティ受信システムを構成することができます。

アンテナディバイダー内蔵

本機はアンテナディバイダーを内蔵しているため、複数チャンネルの受信も 2 本のアンテナで運用可能です。

最大 34 チャンネルの同時運用システム構成が可能

本機はアンテナのカスケード出力端子を備えており、PB-860 をもう 1 台接続することによって A2 型、A 型、B 型の各帯域のすべてを使用した、最大 12 チャンネル同時運用のダイバーシティ受信システムを構成することができます。また、帯域切り換えスイッチの設定により最大 34 チャンネルを受信可能なシステムを構成することもできます。

◆ システム構成について詳しくは、「受信システム例」(17 ページ)をご覧ください。

2 ウェイ方式の電源供給でロケーションフリー

AC 100V 電源のほかに、屋外への持ち出しも可能な DC 12 V にも対応します。

切り換え可能な出力レベル

オーディオ出力は、LINE 出力レベル (−20 dBm) と MIC 出力レベル (−58 dBm) のいずれかに切り換えできます。

豊富なモニター機能

本機前面に、各スロット用のアンテナ入力、オーディオ出力、送信機側のバッテリーアラームの確認インジケータが装備されています。

ご注意

送信機側のバッテリーアラームインジケータは、以下の送信機に対応します。

- WRT-822
- WRT-807S

本機の性能を保持 するために

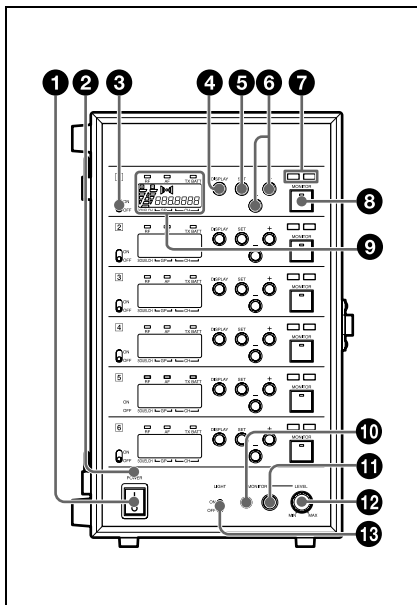
- 本機は、周囲温度 0℃～50℃の範囲でお使いください。
- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めに端子部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、そのような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮める恐れがありますので、ご注意ください。
- 本機を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、本機のアンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- 本機を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - － 回転機、変圧器などの付近
 - － 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - － PA（Public Address）システムのスピーカー付近

－ スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合
対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

- 表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

各部の名称と働き

前面



① POWER（主電源）スイッチ

本機の AC 電源を入／切します。

② POWER（主電源）インジケータ

本機の電源が入ると点灯し、切れると消灯します。

③ POWER ON/OFF（各チューナーの電源）スイッチ

対応するスロットに取り付けられたチューナーの電源を入／切します。

④ DISPLAY（表示切り換え）ボタン

液晶ディスプレイの GP/CH 表示部の表示内容を切り換えます。ボタンを押すたびに、GP/CH（グループ／チャンネル）表示、FREQ（周波数）表示、TIME（対応するスロットに取り付けられたチューナーの累積使用時間）表示の順に切り換わります。

◆ 液晶ディスプレイに表示される情報について詳しくは、「液晶ディスプレイ」（11 ページ）をご覧ください。

⑤ SET（設定）ボタン

1 秒以上押したままにすると本機は設定モードに入り、設定する項目の表示が点滅します。設定項目を切り換えるときや、設定終了時にもこのボタンを押します。

⑥ + / -（選択）ボタン

設定モードで、受信チャンネル（周波数）や RF スケルチレベルを選択します。

◆ 設定について詳しくは、WRR-860 シリーズに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦ 受信帯域インジケータ

対応するスロットに取り付けられたチューナーの受信帯域によって、左右いずれかのインジケータが点灯します。インジケータが点滅するときは、本体後面の BAND スイッチ（13 ページ）の設定を確認してください。

⑧ MONITOR（モニター出力選択）スイッチとインジケータ

スイッチを押すと、スイッチ上のインジケータが点灯し、対応するスロットに取り付けられたチューナーの出力をモニ

ターすることができます。もう一度押すと、インジケーターが消え、モニター出力は中止します。
複数のスイッチを押すと、選択した全信号をミックスした出力をモニターできます。

9 液晶ディスプレイ

◆ 詳しくは、「液晶ディスプレイ」(11 ページ)をご覧ください。

10 MONITOR (モニター出力) 端子 (ミニプラグ)

別売りのイヤホンを接続して、MONITOR スイッチで選択したチューナーの出力をモニターすることができます。

11 MONITOR (モニター出力) 端子 (標準プラグ)

別売りのヘッドホンを接続して、MONITOR スイッチで選択したチューナーの出力をモニターすることができます。

12 MONITOR LEVEL (モニターレベル調節) つまみ

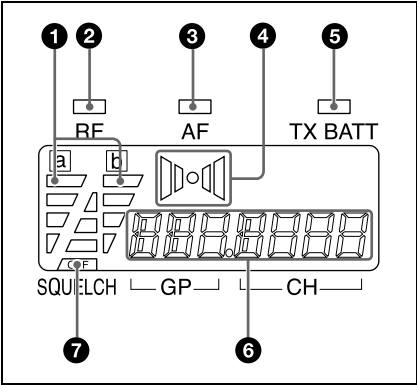
モニター出力のレベルを調節します。

13 LIGHT (バックライト) スイッチ

液晶ディスプレイのバックライトを入/切します。

液晶ディスプレイ

各チューナーの電源を入れると「PB-860」と表示され、そのあと通常表示となります。



1 RF (高周波) 入力レベル表示

各スロットに取り付けられたチューナーへの、高周波信号の入力レベルを表示します。

[a]または[b]が点灯し、ダイバーシティーの切り換えを表示します。

表示				
レベル	5dBμ ～	15dBμ ～	25dBμ ～	35dBμ ～

2 RF (高周波) インジケーター

チューナーへのアンテナ入力が、設定したスケルチレベル以上になると、下表のように点灯します。

点灯色	チューナーへのアンテナ入力
赤	設定されたスケルチレベル以上 ～設定スケルチレベル +10 dB 未満
緑	設定されたスケルチレベル +10 dB 以上

スケルチを OFF にした場合は、スケルチレベルを 5 dBμ に設定した場合と同様に点灯します。

③ AF（音声出力）インジケーター

基準周波数偏移相当以上の音声出力されたとき、オレンジ色に点灯します。

④ AF（音声出力）レベル表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると点灯します。

⑤ TX BATT（送信機の電池残量）インジケーター

本機が信号を受信している送信機（ソニー WRT シリーズなど、バッテリーアラーム機能付きトランスミッターやワイヤレスマイクロホン）の電池がなくなる約 1 時間前から、赤く点灯します。

ご注意

TX BATT インジケーターは送信機側の取扱説明書の「仕様」に記されている状態を想定しています。

そのため、本機の使用環境、条件により点灯のタイミングが前後する場合があります。

⑥ GP/CH（グループ／チャンネル）表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。

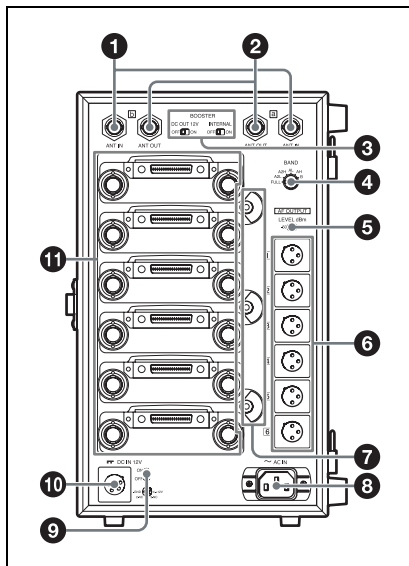
DISPLAY ボタンを押すたびに、受信チャンネルの周波数（FREQ）表示と対応するスロットに取り付けられたチューナーの累積使用時間（TIME）表示が切り換わります。

⑦ SQUELCH（スケルチ）表示

RF スケルチレベルの設定状態を表示します。

◆ スケルチレベルの設定について詳しくは、WRR-860 シリーズに付属の取扱説明書をご覧ください。

後面



① ANT IN（アンテナ入力／ブースター電源出力）a/b 端子（BNC-R 型）

ダイバーシティ受信用に、a/b 2 系統のアンテナ（本機に付属のアンテナまたは別売りの AN-57M など）を接続します。また、別売りのアンテナブースター（WB-850 など）を接続し、BOOSTER DC OUT 12V スイッチを ON にすると、アンテナブースターに DC 電源を供給できます。

② ANT OUT（カスケード出力）a/b 端子（BNC-R 型）

a/b のアンテナ入力を分配出力します。もう 1 台の PB-860 の ANT IN 端子と接

続することにより、1組のアンテナで2台のPB-860を運用できます。

③ BOOSTER スイッチ

BOOSTER DC OUT 12V (アンテナブースター電源) スイッチ：ANT IN 端子にDC電源を供給します。別売りのアンテナブースターをANT IN端子に接続しているとき、ONにしてください。

BOOSTER INTERNAL (内部ブースター) スイッチ：内部ブースターを入/切します。付属のアンテナでの運用時はONにしてください。別売りのアンテナブースターを使用する場合はOFFにしてください。

ご注意

- RF入力レベルを上げすぎると、妨害電波やスケルチの誤作動により雑音が発生することがあります。アンテナブースター使用時でも、RF入力レベルが低くS/N比が悪い場合は、BOOSTER INTERNAL スイッチをONにしてください。
- アンテナブースターを使用しない場合でも、本機の受信アンテナの近くに送信機があるなど、極端にRFレベルが高いときはBOOSTER INTERNAL スイッチをOFFにしてください。

④ BAND (受信帯域切り換え) スイッチ

通常は、「FULL」に合わせておきます。WRR-860 シリーズのA2型とA/B型のどちらでも使用できます。

複数のPB-860を使って、最大34チャンネル同時運用システムを構成する場合

や、使用する帯域外からの妨害電波の影響を排除する場合は、本機に装着するチューナーの帯域や、チャンネルプランに応じた位置に設定します。装着しているチューナーの帯域と、このスイッチの設定が合っていない場合は、本機前面の受信帯域インジケーターが点滅します。

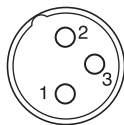
⑤ AF OUTPUT LEVEL (出力レベル切り換え) スイッチ

接続する機器に合わせて、-20 (LINE レベル：-20 dBm *) または-58 (MIC レベル：-58 dBm *) に設定します。

* 基準周波数偏移変調時

⑥ オーディオ出力端子 (XLR-3-32F 相当)

各スロットに取り付けられたチューナーの音声信号を出力します。ミキサー、アンプなどの音声入力端子に接続します。



1: GND
2: HOT
3: COLD

⑦ チューナーロックつまみ

各スロットに取り付けられたチューナーを固定します。

◆ チューナーの固定のしかたについて詳しくは、「チューナーを取り付ける」(15ページ)をご覧ください。

⑧ AC IN (交流電源入力) 端子

付属の電源コードを接続します。

⑨ DC IN 12V (直流電源入力) スイッチ

DC 電源で本機を使用する場合に ON にします。

ご注意

AC 電源コードと DC 電源コードの両方が本機に接続され、前面の POWER (主電源) スイッチと DC IN 12V スイッチの両方が ON になっている場合、AC 電源の入力が優先されます。その状態で AC 電源が供給されなくなると、自動的に DC 電源の入力に切り換わります。

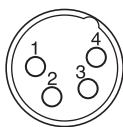
⑩ DC IN 12V (直流電源入力) 端子 (XLR-4-32F 相当)

DC 電源コード (XLR-4-11C 相当のコネクター付き) を接続します。

警告

電源電圧と極性には充分注意して使用してください。

ピン配列



- 1: GND
- 2: NC
- 3: NC
- 4: +12V

⑪ チューナーズロット

スロット **①** ~ **⑥** に 1 台ずつ、最大 6 台の WRR-860 シリーズを取り付けることができます。

◆ チューナーの取り付けかたについて詳しくは、「チューナーを取り付ける」(15 ページ) をご覧ください。

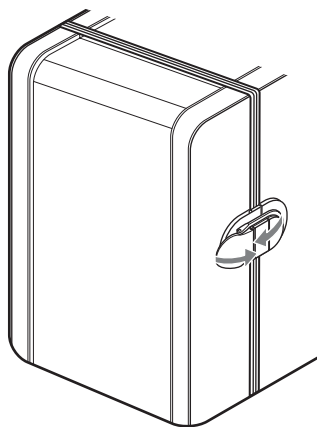
準備

カバーを取り外す

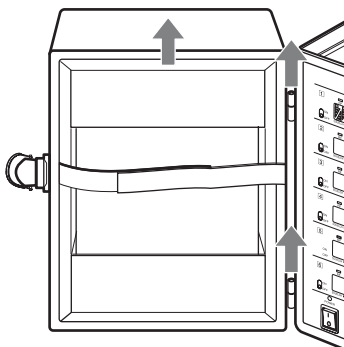
本機の前面と後面には、移動時の保護のためにカバーが付いています。

カバーは前後とも取り外しができ、内側には電源コードなどを収納できます。

- 1 レバーを押し、カバーの固定を解除する。



- 2 カバーを開き、持ち上げて外す。



アンテナを接続する

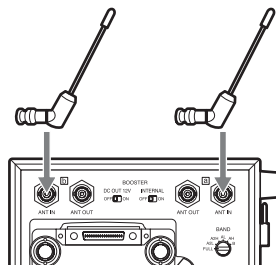
別売りのアンテナブースター（WB-850 など）を使用する場合は、BOOSTER DC OUT 12V スイッチを ON にしてください。

BOOSTER INTERNAL スイッチは、運用条件に応じて切り換えてください。

ご注意

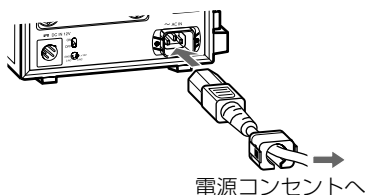
本機のアンテナブースター供給電源は、12 V です。ブースター内蔵アンテナ AN-820 は 9 V 動作のため、ご使用になれません。

アンテナ（付属）を、ANT IN a/b 端子に接続します。

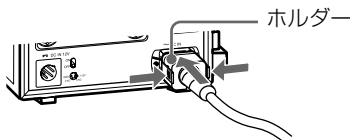


電源コードを接続する

- 1 電源コード（付属）を、AC IN 端子に差し込む。

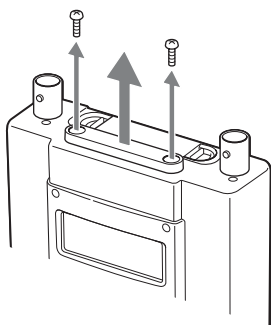


- 2 ホルダーで電源コードを固定する。

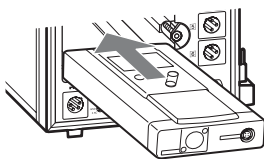


チューナーを取り付ける

- 1 チューナー天面のねじ（2 本）を外し、端子カバーを取り外す。

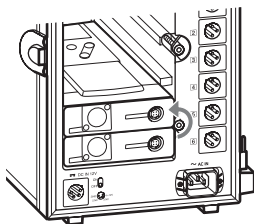


- 2** チューナーの液晶ディスプレイ面を上にして、チューナースロット内の左右のレールに合わせて押し込む。



- 3** チューナーロックつまみを回して固定する。

チューナーロックつまみ 1 個につき、2 台までのチューナーを同時に固定できます。



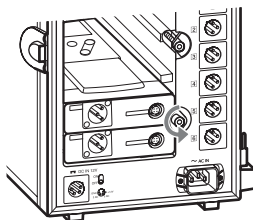
ご注意

チューナーを本機に取り付ける前に、乾電池を外しておいてください。長期間乾

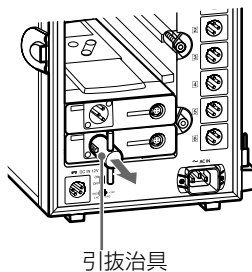
電池を入れたままにしておくと、液もれすることがあります。

チューナーを取り外すには

- 1** チューナーロックつまみを回してゆるめる。



- 2** 引抜治具（付属）をチューナーの OUTPUT 端子に差し込み、チューナーを引き抜く。

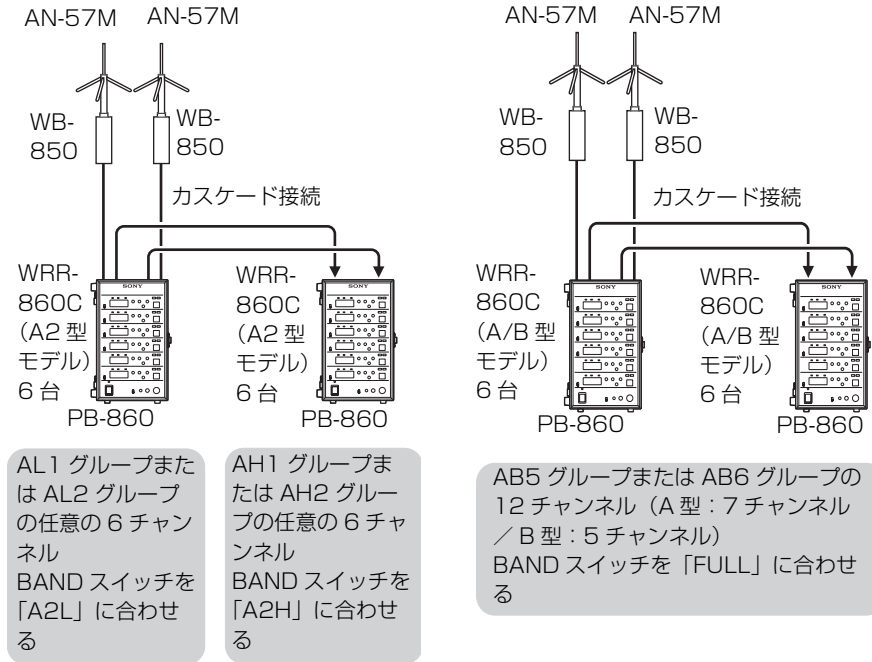


設定について

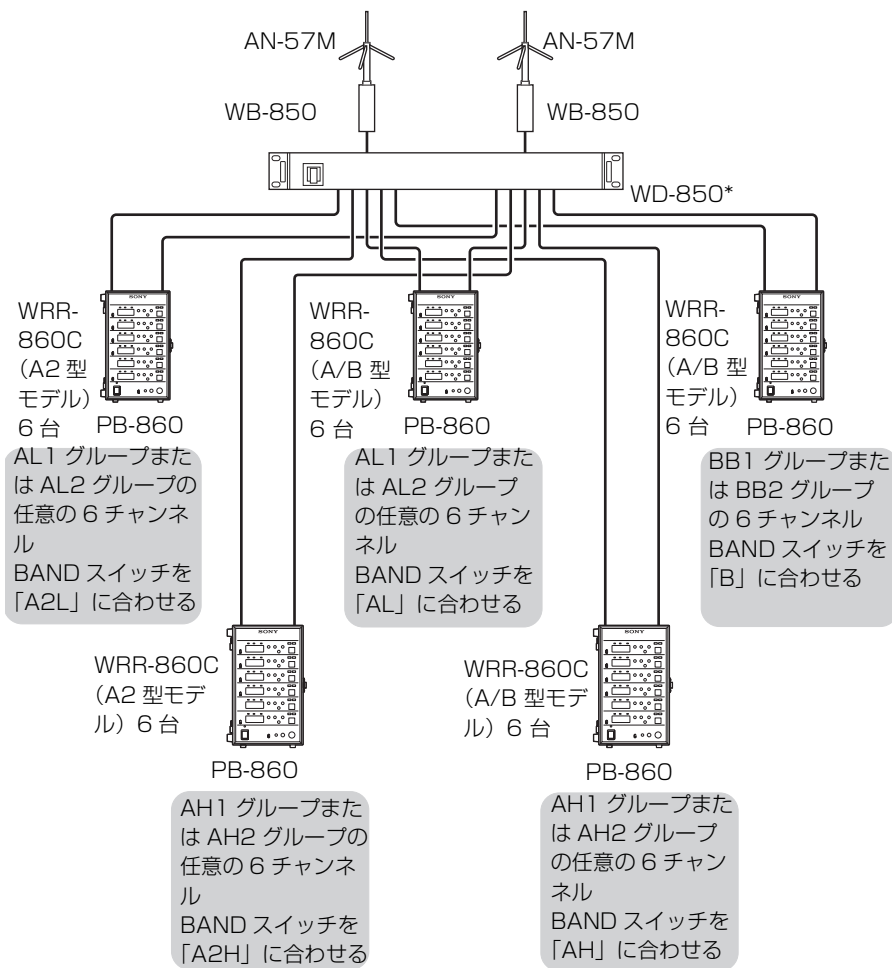
本機の設定とチャンネルプランは、WRR-860 シリーズの仕様と同じです。詳しくは、WRR-860 シリーズに付属の取扱説明書をご覧ください。

受信システム例

24 チャンネル受信システムの例（アンテナ 2 系統）



30 チャンネル受信システムの例（アンテナ 1 系統）



* アンテナディバイダー WD-850 のかわりに WD-880 を使うことにより、34 チャンネル受信システムでの運用が可能になります。

各種メッセージ

液晶ディスプレイには、通常表示の他に
次のようなメッセージが表示されます。

メッセージ	内容	対応
Error 01	チューナーのバックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	チューナーのデータが初期化されます。グループ、チャンネル、スケルチ機能の再設定をしてください。
Error 02	チューナーの PLL シンセサイザー回路に異常があります。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。
NO TONE	トーン信号がないか、32.768 kHz 以外のトーン信号の電波を受信して、音声信号がカットされています。	ご使用のトランスミッターが WRT-28M の場合、AB7、AB8、または AB9 グループを選択してください。それ以外のグループで使用する場合は、本機を T OFF モードに設定してください。
T-BATT	送信機のバッテリーが消耗しています。	送信機の乾電池を新しいものと交換してください。
T OFF	チューナーが T OFF（トーンスケルチ OFF）モードに設定されています。	チューナーのスケルチ機能のいずれかが OFF になっています。ご使用の状況に応じて、設定を変更することができます。詳しくは、WRR-860 シリーズに付属の取扱説明書をご覧ください。
M OFF	チューナーが M OFF（すべてのスケルチを OFF）モードに設定されています。	
N OFF	チューナーが N OFF（ノイズスケルチ OFF）モードに設定されています。	
MT OFF MN OFF TN OFF MTN OFF	チューナーが M OFF、T OFF、N OFF の各モードの組み合わせで設定されています。	
ComErr	本機とチューナー間の通信に異常があります。	チューナーが本機に確実に取り付けられていることを確認し、本機の電源を入れ直してください。 それでも改善されない場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前にもう一度点検をしてください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない	電源コードが抜けている。	電源コードを AC IN 端子に、ホルダーでしっかりと固定してください。また、電源コードをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。
	DC IN 12V スイッチが OFF になっている。	DC 12 V 電源で本機を使用する場合は、後面の DC IN 12V スイッチを ON にしてください。
チューナーの電源が入らない	チューナーが正しく取り付けられていない。	チューナーを奥まで差し込み、チューナーロックつまみを締めて確実に取り付けてください。
受信できない／雑音が多い	アンテナが正しく接続されていない。	アンテナの接続を確認してください。
	BAND スイッチの設定が、受信周波数と合っていない。	受信周波数に合わせて、設定を切り換えてください。（チューナーの帯域と BAND スイッチの設定が合っていない場合は、前面の受信帯域インジケータが点滅します。）
	BOOSTER スイッチが OFF になっている。	ANT IN 端子に別売りのアンテナブースターを接続している場合は、BOOSTER DC OUT 12V スイッチを ON にしてください。
		付属のアンテナを接続している場合は、BOOSTER INTERNAL スイッチを ON にしてください。
音声信号のレベルが低すぎる／高すぎる	AF OUTPUT LEVEL スイッチの設定が合っていない。	多チャンネル運用時に、送信機と本機のアンテナが至近距離にある。
		高周波レベルが高くなりすぎています。送信機と本機のアンテナの距離を離すか、BOOSTER INTERNAL スイッチを OFF にしてください。

仕様

アンテナディバイダー部

周波数範囲	770 ～ 810 MHz
アンテナ入力コネクタ	BNC-R タイプ× 2 (DC 12V 出力 ON/ OFF 可)
カスケード出力コネクタ	BNC-R タイプ× 2
高周波分配数	チューナー : 6 カスケード : 2
入出力インピーダンス	50Ω
チューナー用高周波分配損失	18 dB (内部ブース ター OFF 時)
カスケード出力分配損失	4 dB
内部ブースター利得	18 dB
アンテナブースター用電源	DC 12 V 250 mA max (アンテナ入力端子 より供給)

オーディオ部

オーディオ出力コネクタ	XLR-3-32F 相当× 6
オーディオ出力レベル	- 20/ - 58 dBm 切換 (受信機入力基準周 波数偏移時) + 16/ - 22 dBm 切換 (受信機入力最大周 波数偏移時)
周波数特性	20 ～ 20,000 Hz (PB- 860 のみ)

S/N 比	60 dB 以上 (WRR- 860/860C 使用時)
歪率	0.01% 以下 (PB-860 のみ)

モニター

モニター端子	ステレオ標準ジャック ／ミニジャック
モニター出力	10 mW
モニター選択機能	スロット ① ～ ⑥ 単 独 及び ミキシング

電源部・その他

電源入力電圧	AC 100 V 50/60 Hz DC 12 V (許容電圧範 囲 11 ～ 18 V)
消費電力	30 W (AC 100 V 時)
消費電流	2 A (DC 12 V 時)
電源コネクタ	AC : 3P インレット DC : XLR-4-32F 相当
外形寸法 (mm)	170 × 292 × 316 (幅 ／高さ／奥行)
質量	5.8 kg (チューナーユ ニット含まず)
付属品	アンテナ (2) 電源コード (1) 引抜治具 (1) 保証書 (1) 取扱説明書 (1)

別売りアクセサリ

アンテナ	AN-57M
アンテナブースター	WB-850

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービスについて

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

この説明書は、再生紙を使用しています。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Japan